

弁護士法人福岡法律事務所

代表弁護士福岡則博、弁護士尾崎悠吾、弁護士松村隆志

〒665-0845 兵庫県宝塚市栄町2丁目2番1号ソリオ3(5階)

TEL: 0797-87-5606 FAX: 0797-87-7160

HP: <https://www.fukuma-law.com/>

Mail: [office@fukuma-law.com](mailto:office@fukuma-law.com)

執筆: 弁護士福岡則博



## Legal F : Forces for Friends, Families and Fortunes (友人、家族、財産を守る力)

大栗博司先生の著書を中心に紹介します。

### ① 「大栗先生の超弦理論入門～九次元世界にあった究極の理論」大栗博司 講談社 2013

ニュースレターNo.10に掲載した大栗先生の前著「重力とは何か」において、**3次元の空間は2次元の平面的情報に還元**されるという「**ホログラフィー原理**」が紹介されていましたが、本書においては、超弦理論の基礎的内容について、**できるだけやさしく、しかし、「ごまかしのない解説」**が試みられています。もともと現代物理学という難解な内容だけにそれを素人に正確に説明することは極めて困難と思われそうですが、先生は、誠実にこれを行い、読者を物理学の最先端まで導いていきます。先生は、「超弦理論の研究を通して、**世界の見方が根底から覆るような経験**をした」とされており、その体験を広く読者に味わって貰いたいという思いが伝わってくる本です。

### ② 「探究する精神～職業としての基礎科学」大栗博司

幻冬舎 2021

大栗先生の学問と人格が形成されてきた過程が生き生きと書かれています。小学校5年生の時に展望レストランから地球の半径を計算したエピソードに始まり、京都大学大学院修了、東大助手を経て、ハーバード大学ジュニアフェローの面接を断って、**アインシュタインもいたプリンストン高等研究所に採用**され、その時は喜びのあまり後方宙返りをした話等々、興味深く語られています。

本書の副題「**職業としての基礎科学**」は、**マックス・ウェーバーの「職業としての学問」「職業としての政治」**を連想させるものであり、ウェーバーは、学問の客観性を確保する見地から、**科学的認識と価値判断を峻別し、価値の選択を伴う行為は「政治」**であるとして、そこでは「**結果責任**」が要求されるとしました。

大栗先生は、戦争協力をした科学者たちの苦悩にも言及しつつ、「**より深く、より正しく物事を理解しようとする**ことが、**意識の本来の機能**」であるとし、このような「**探究する精神**」がもたらす科学的認識は、善でも悪でもなく、そ

の利用の仕方が問題になるとします。科学的知見とその利用との間には、葛藤が生じる場合もありますが、科学は、いつかは社会の役に立つものであるとしています。

本書は、著者自らの探究心を探究した書であるとも言えるでしょう。

### ③ 「真理の探究～仏教と宇宙物理学の対話」

佐々木閑・大栗博司 幻冬舎 2016

最先端の物理学と宗教がはたして交わり得るのか、仮に、交わり得るとしてもどう交わるのか興味深いところですが、**仏教学者である佐々木氏は、キリスト教、イスラム教、仏教**について、これを3大宗教とするよりは、**神や外界の超越者を認める宗教(キリスト教、イスラム教)**と、これを認めない宗教(**仏教**)の2つに分けた方がよいとし、さらに仏教については、**煩惱からの解放、あるいは悟りに至る方法**について、**釈迦の教えのように、自己の修行によってこれを達成**しようとする立場(**小乗仏教**)と、**釈迦後の大乘仏教のように、念仏を唱えさえすれば他力本願として煩惱から解放**されるとする立場があるとします。佐々木氏がよって立つ**小乗仏教**によれば、**仏教は、精神分析的な精神療法**とも考えられ、ここでは、**煩惱の原因とその除去**についての**因果律**が用いられることから、「**科学**」と共通性があり、そこに物理学者との「**対談**」が成り立つ土台があるように思われます。

本書の対談が面白いのは、二人がそれぞれ相手の立場への配慮から質問を遠慮するようなことをせず、率直な意見の交換から新しい見方が生まれるところにあります。

佐々木氏によれば、**仏教は時間の連続性を認めず、現象は一刹那(まばたきの20分の1)の独立した形態の集積**とされていますが、**大栗氏が、もしかしたら意識の連続も幻想かもしれない**とし、「**夜寝るたびに死んで、朝になると輪廻のように生まれ変わっている**と考えるのが常識になるかもしれない」と発言されると、**佐々木氏は、「仏教の時間はまさにそれであり、夜と朝どころか、一刹那ごとに違うもの**に変わっていく」としています。両氏の思考の鋭さと深さに感心させられる本でした。